

聖中だより

<http://schit.net/tama/jhhijirigaoka/>
ユネスコスクール・コミュニティスクール



学校教育目標

- ・心身ともに健康で実践力のある生徒
- ・深く考え進んで学ぶ生徒
- ・人や物・自然を大切にす生徒

感謝の気持ちを込めて

～令和5年度 修了式 式辞より～

先日の卒業式、1・2年生の皆さんは、どのように感じましたか？

私は、令和5年度の締めくくりにふさわしい卒業式だったと思います。それは、卒業生はもとより、それを見送る在校生の皆さんの取組姿勢がとても素晴らしかったからです。その予兆は、すでに当日までの式練習や会場準備、3年生へのメッセージなどに現れていましたが、本番は、それが見事に発揮されていました。

当日は、4年ぶりに全校生徒そろっての卒業式でしたが、礼法や歌はもとより、座っているときの態度など、どれをとっても満点といえるほど、全員がしっかり取り組んでいました。体育館の暖房が効かないくらいの寒さでしたが、心は温かく、晴れ晴れとした良い思い出になる式でした。卒業生も、さぞ嬉しかったことと思います。

私も、校歌の迫力や、壇上から見える全校生徒の卒業式に対する姿勢に感動し、思わず目頭が熱くなりました。これこそが、聖中らしさだと感じました。私にとっては、これが校長として最後の卒業式ただけに、嬉しさもひとしおでした。改めて、1・2年生の皆さんに心からお礼を言いたいと思います。

そこで、感謝の気持ちを込めて、離任式でお伝えしたかったことをここでお話しさせていただきます。それは、人は、誰にでも良いところがあるということです。

年2回行う生徒アンケートでは、どの学年でも少なくとも2割以上の生徒が、自分の良いところ気づいていないという結果が見られます。中には、「自分には良いところはない」と思い込んでいる人もいます。しかし、私から見れば、それは思い違いで、ただ単に自分の良さに気づいていないだけだと思います。なぜなら、卒業式であのようにしっかり取り組めたのですから、聖中生全員に少なくとも3つ以上の長所があると言えます。まず、みんなに合わせて拍手をしたり、礼法も練習通りに行えたりするのは「協調性」があるからだと言えます。また、2時間近く、私語もなく、姿勢を崩さずにいられることは「けじめ」や「忍耐力」があると言えます。そして、何より、あの気持ちのこもった校歌や合唱には、3年生に心置きなく卒業して行ってほしいという「思いやりの心」や「感謝する心」が無意識に表れていたと思います。

しかし、人は、他の人の長所については比較的容易に言えるのですが、自分のこととなると、どうしてもマイナス面に目が行きがちです。しかも、人から見ればうらやましいとさえ思えるような長所と言えることでも、自分では短所だと思いこんでいることもあります。ですから、今の自分にあまり自信をもてていない人は、一度、見方を変えて、自分自身を客観的に見てみてください。何かしら新しい発見があるかもしれません。それでも見つからない人は、友達や家族、先生など、身近な人に聞いてみてください。きっと自分では気付かなかった長所を教えてくれるでしょう。

どうか、これからの日々、自分の良さをたくさん見つけて、長所を伸ばし、自信をもって自分の可能性を信じて前向きに歩いていってください。皆さんの、人生という長い航海の安全と成功を祈ります。

【保護者・地域の皆様へ】

私は、この3月末をもって、退職することとなりました。聖中での5年間は私にとりまして、大変有意義で充実した日々でした。これも、ひとえに皆様の御理解と御支援の賜物と深く感謝申し上げます。

これからも本校の教育活動への御支援・御協力を賜りますよう心よりお願い申し上げますとともに、皆様の御多幸を心よりお祈り申し上げます。

